４．地図から見える成東駅周辺の歴史

1) はじめに

本章では、明治 17 年、明治 36 年、昭和 26 年、昭和 44 年の地図を用いて成東駅周辺を観察し、成東駅を中心とした街の発展状況、歴史的変遷の観点から知見を得ることを目的とする。

2) 明治 17 年の成東地域

明治 17 年の地図を見ると、平野と丘陵との境目に集落が展開していることが顕著にあらわれている。特に、成東城趾の南側の集落は色が濃く、密集度が高いことが分かる。この集落の街道沿いの北端の集落は、北西方向に向かう街道との結節点にあり、集落の形成に影響を持っていたと推察できる。

鉄道はまだ設置されておらず、現在の成東駅は、明治 17 年当時は農地である。現在は、旧道沿いに商店、家屋が連続的に展開しているが、この当時は、上町、下町地区と富田地区との間には農地のみが展開している。

1) 参謀本部陸軍部測量局［編］：第一軍管地方迅速図 佐倉近傍 25 面組、佐倉近傍第四号、明治十七年測量、明治二十年出版（大日本測量 (株) 資料調査部複製）

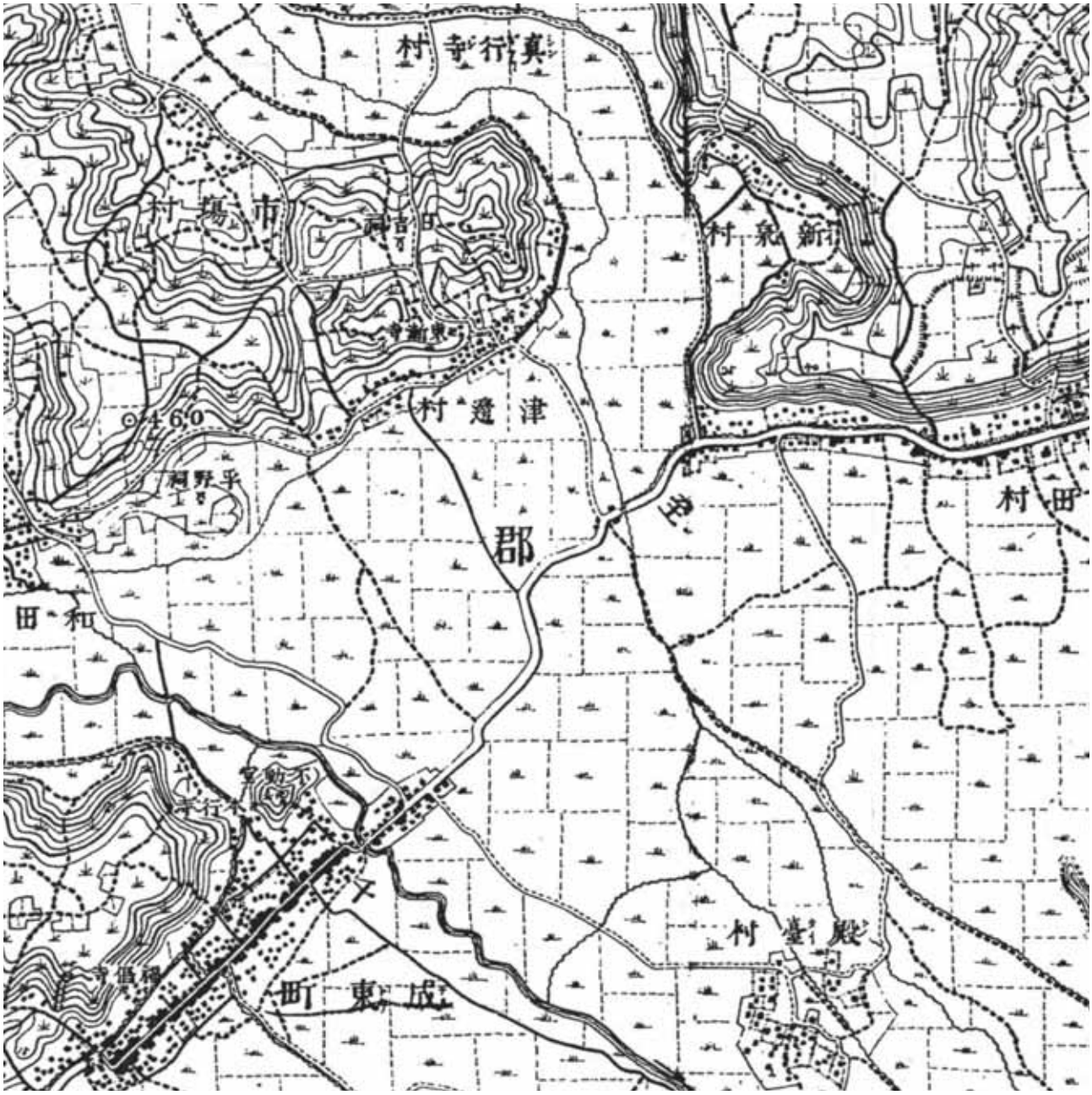

図 4-1.　明治 17 年当時の成東地域の地図 [1)]

3) 明治 36 年の成東地域

明治 30 年に成東駅が開業[注 1)] し、街道から駅に向かって垂直に延びる道が確認できる。明治 17 年当時の地図では成東城の北東にある街道のクランク付近に建物らしき記号は見られなかったが、明治 36 年の地図では、駅から旧成東城下町に向かって連続的に建物が記されている。同様に明治 17 年の地図には記されて居なかったが、富田地区と駅との間にも建物が記されている。また、交番が波切不動の南東に、町役場、郵便局が現在の下町にあったことが地図から分かる。

注 1）明治 30 年 5 月 1 日に総武鉄道の駅として開業した。同時期に成東銀行（現在の千葉銀行成東支店）も開業している。
2) 山口恵一郎 [編]：日本図誌大系関東Ⅱ、朝倉書店、p75、1972 年

図 4-2.　明治 36 年当時の成東地域の地図 [2)]

4) 昭和 26 年の成東地域

東金線が開通[注 2)] しており、明治 36 年の地図と比べると、旧城下町以北、成東駅以南の街道沿いの建物が密集している。町役場、郵便局が街道と平行して北上し、波切不動付近に移動している。また、波切不動付近にあった交番が街道の南側へ移動している。

注 2) 明治 44 年 11 月 1 日に東金線が成東駅まで延伸してきた。
3) 山口恵一郎 [編]：日本図誌大系関東Ⅱ、朝倉書店、p76、1972 年

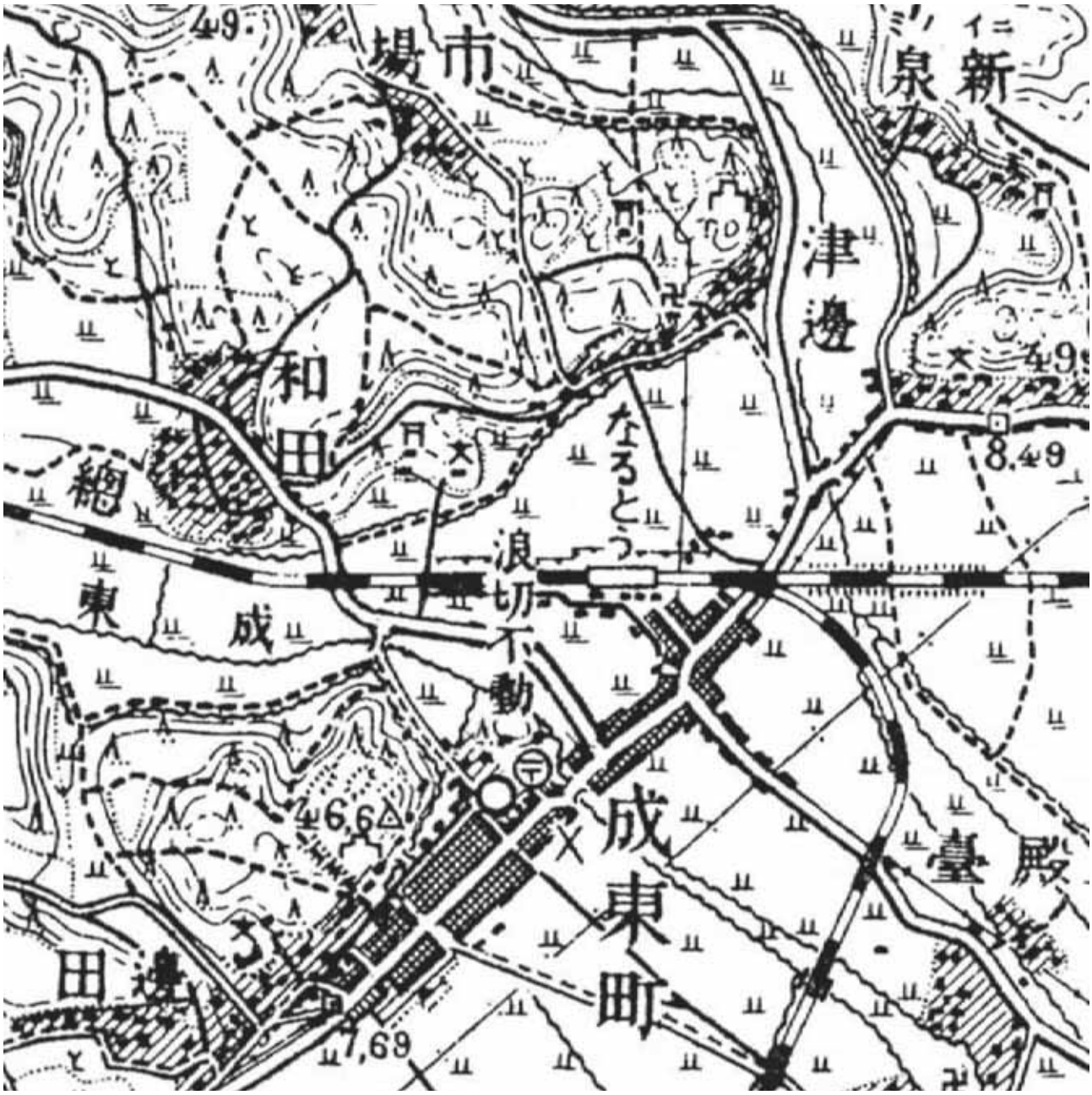

図 4-3.　昭和 26 年当時の成東地域の地図 [3)]

5) 昭和 44 年の成東地域

成東駅前付近の建物が増えている。国道が敷設され、交番が警察署に変わって国道の南側に移動している。国道沿いにいくつか建物が見える。町役場も駅付近に移動している。新町、下町付近の街道の北側に道が増設されている。

4) 山口恵一郎 [編]：日本図誌大系関東Ⅱ、朝倉書店、p77、1972 年

図 4-4.　昭和 44 年当時の成東地域の地図 [4)]

6) まとめ

成東駅とその周辺を地図を用いて歴史的変遷を追った。成東駅周辺の建物は駅が開業してから形成されたものであり、駅の設置と街区の形成には大きな因果関係があることが分かった。また、旧城下町からの延長上に成東駅があると捉えることができ、上町や下町と成東駅周辺の街並み形成に歴史的文脈があるのではないかと推察する。また、成東駅が開通した明治 30 年頃は、成東銀行[注 3)] の開業や、成東館の開業[注 4)] があり、成東駅周辺の環境が大きく変化した時代であることが推察できる。

注 3) 明治 30 年に開業し、大正 12 年に総武銀行と合併した。
注 4) 明治 33 年に塚本衛がラジウム鉱泉を発見し、明治 34 年に鉱泉旅館として開業したが、昭和 5 年に廃業した。